



平成18年度 ティーチング・アシスタント 表彰



去る4月20日(金)1年生のティーチング・アシスタント(TA)の中から最も活躍した8名が表彰され、授業料の一部免除の特典が与えられました。

2年生に進級してからも益々の活躍を期待しています。

《保育士コース》	櫻井 彩加	富田 樹	
《保幼コース》	石田 和之	大友 新太郎	金田 勇作
	田島 裕介	積田 栄	結城 智司



☆ティーチング・アシスタント(TA)とは・・・

大学・短期大学卒業者、社会人経験5年以上の方、または子育て経験のある方等を対象に選考し、授業補助を行ってもらう制度です。

オーストラリア研修旅行を終えて

奨学生 保幼2B 高畑 佳織



私はこの三月に一週間のオーストラリア幼児教育施設研修旅行に行ってきました。オーストラリアの幼稚園、保育園で、手遊び、折り紙、ダンス、紙芝居をするために何ヶ月も前からグループごとに練習をしました。

一日目。飛行機に乗ってオーストラリアへと出発しました。

二日目。朝、シドニーに着き、オペラ・ハウスやタロンガ動物園に行きました。オペラ・ハウスでは職員の方に説明して頂き見学しました。柱を一本も使っていない設計方法にはとても驚きました。

三日目。この日はピンジャラ・チャイルド・ケア・センターとノース・ショア・テンプル・エマニュエル・プレスクールに行きました。そして今まで練習してきたプレゼンテーションを実際にやってみました。私は手遊びグループで「むすんでひらいて」と「とおりゃんせ」

をしました。やる前は言葉が通じるか、一緒に手を動かしたりしてくれるかととても不安でした。しかし、始めてみると子どもたちは楽しそうに手を動かしたり、私たちの真似をしてくれました。

言葉の壁がありながらも、私たちと一緒に楽しそうに手を動かしている姿を見て、とても嬉しく思いました。また、実際にやってみて、手を開いたり閉じたりする練習が必要だったり、「とおりゃんせ」の歌は短くした方が良いのではないかなどの改善点も見えてきました。この日の研修を終えて、次の研修にどのように活かせるか、各グループで話し合いや練習もしました。

四日目。自主グループ行動で計画していた教会や水族館に行きました。街並みも日本とは全く違い、見るもの全てが新鮮でした。夜には飛行機でメルボルンへ行きました。

五日目。この日はタッカー・ロード・プライマリー・スクール・ベントレーと、ベントレー・プレ・スクールと、マウント・スコープス・メモリアル・カレッジへ行きました。日本語を学んでいる高校生との交流や、中学生との文化交流アクティビティをしました。「かえるのうた」を輪唱したり、紙芝居グループの「ももたろう」を見たりしました。中学生は元気が良く、積極的に日本語で話しかけてくれて、とても楽しかったです。

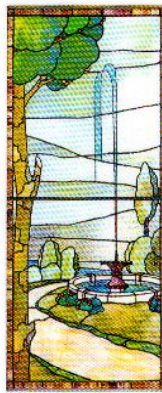
六日目。オーストラリア最後の日は、とても大きなクィーン・ヴィクトリア・マーケットへ行きました。そのあとは自主グループ行動で、グループごと計画したところへ行きました。

最終日。日本へ帰ってきました。

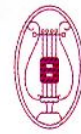
今回、この研修旅行に参加し本当に良かったと思います。このような機会がなければ外国の子どもたちと触れあうこともなかったのだらうと思うと、とても貴重な体験ができたと思います。オーストラリアの子どもたちも日本の子どもたちと同じでとても可愛かったです。子どもたちとの触れ合いの他にもオーストラリアとの日本の文化の違いなど見ることができ、勉強になりました。このことを活かし、これからの学生生活や実習に役立て、より良い保育者になれるよう頑張りたいと思います。



《ピンジャラ・チャイルド・ケア・センター》



学園記念ホール
ステンドグラス



Information from

Nichi-On

Since 1903

— 創立104周年 —

The Campus News

日本音楽学校 幼児教育科 学生向情報

《5～8月の行事予定》

1年生		2年生
5/18(金)	教養講座(楽しいパネルシアター)	5/18(金) 教養講座(楽しいパネルシアター)
6/8(金)	実習前授業終了	5/22(火) 実習オリエンテーション
11(月)～22(金)	幼稚園観察実習(保幼)	6/1(金) 実習前授業終了
25(月)	授業再開	4(月)～14(木) 保育園実習(保・保幼)
7/20(金)	夏期休暇前授業終了	18(月)～29(金) 幼稚園実習(保幼)
21(土)	補講日	施設実習(保)
23(月)～9/2(日)	夏期休暇	7/2(月) 授業再開
9/3(月)	授業再開	7/20(金) 夏期休暇前授業終了
		21(土) 補講日
		23(月)～9/2(日) 夏期休暇
		9/3(月) 授業再開

行事予定は追加・変更になることがありますので学内掲示等にご注意下さい。

ジョブ・ハンティングがスタート!

専任教員 亀井 哲宏

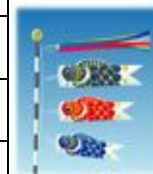
ジョブハンティング(job-hunting)という英語をはじめて聞いて、英語圏の人々との就職活動に関する意識の違いに驚いた記憶があります。獲物を仕留める「狩り」として就職活動を捉えているのかと思うと、その攻撃的なまでの態度に感心しました。

昨今、公立の幼稚園や保育園からの求人は極めて少なく、しかも、その少ない求人をめがけて、他の専門学校や短大・四年制大学の学生が殺到します。「私立で・・・」、あなたはそう思うかもしれません。しかし、私立は私立で、少しでもよい人材を求めています。

いずれにせよ、希望した園に採用されたければ、やはり実力が求められます。みなさんも、ジョブハンティングで「狩り」の力をつけてみませんか?

週	テーマ	実施日	担当教員
1	社会福祉	5月8日	亀井先生
2	児童福祉	5月15日	亀井先生
3	心理学I	5月29日	杉本先生
4	小児保健・小児栄養	7月3日	奥島先生
5	保育原理・養護原理	7月10日	富岡先生
6	教育原理・教育課程	7月17日	山本先生
7	一般教養・総合試験	9月4日	小林校長先生

ジョブ・ハンティングは就職試験対策講座です。毎回テーマが設定されており、事前に配布される資料をもとにテストまで各自で勉強を進めていきます。



時間は4時10分からの60分間で、前半30分間が模擬試験、後半30分間が採点と解説に充てられています。場所は6-1教室です。(場所は変更になる場合があります。)

テストの結果は後日、掲示板で確認することができます。

入学式式辞

校長 小林 志郎

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。
また、新入生の保護者の方々、ご親族の方々、そして友人の皆さんにもお喜びの言葉を申し上げたいと思います。

本日は、元衆議院議員、東京農業大学教授・栗本慎一郎先生を始めとして、多くの学校関係者のご参列を仰ぎ、平成十九年度「日本音楽学校入学式」を挙行できますことは私の喜びとするところであります。ご来賓の皆様に心から感謝の意を表したいと思います。

新入生のみなさん、皆さんにとって、子どもとはどんな存在でしょうか。
かく言う私にも分からないのです。私は親に育ててもらいました。自分の子どもの子育てを経験しました。しかし私の子育てより、他の人の子育てのほうがはるかに優れているのではないかと不安になります。私は自分の子どもの心を理解しないで子育てをしたのではないかと罪の意識を感じることもあります。

私たち人間は、子どもとは何か、人間とは何かを議論してきました。なかなか答えは出ませんでした。そこで人間とは何かについて考えたことを次の世代に申し伝えるために教育が始まりました。教育とは、人類がずっと考えてきた「人間とは何か」、「こどもとは何か」を次の世代に受け渡す仕事なのです。
そこで先人たちが子どもについてどんなことを言っているか、入学式や卒業式という節目の時に学生諸君とおさらいしようと思い、詩、小説、戯曲を取り上げてお話してきました。

最初に、2001年の入学式で、日本最古の歌集、万葉集の中から山上憶良の歌を紹介しました。山上憶良は奈良時代の人です。40歳ごろ遣唐使として唐に渡り、帰国後、島根県、福岡県へ役人となって赴任しています。

瓜食めば 子ども思ほゆ 栗食めば まして偲はゆ

いづくより 来りしものぞ

眼交に もとなかかりて 安眠し寝さぬ(5-802)

意味は、「瓜を食べば、子供にも食わせてやりたいと、子供のことが思われる。栗を食べば、まして子どもが偲ばれてならない。一体どこからやって来たものなのか。子供の面影が目の前にやたらとちらついて、夜もおちおち眠れない。」というものです
前の歌を受けて、返答をする歌として反歌があります。

銀も金も玉も何せむにまされる宝子にしかめやも(5-803)

歌は、「銀も金も真珠も、何になろうかね。大切な宝と言ったら、子にまざるものなどありはしない。」という意味です。

確かに幼い子どもは宝物です。出来の悪い親であろうと、子どもは最高の贈り物なのです。私もわが子を宝物と何度思ったことでしょう。世間の親は自分の子どもを天から授かった宝物だと思っていると考えて間違いないでしょう。

昨年度の卒業式では、金子みすずの詩を紹介しました。彼女は1903年、山口県に生まれました。ちょうど日本音楽

学校が神田錦町三丁目に誕生した年でもありました。1930年、26歳の若さで世を去りました。

こころ

金子みすず

おかあさまは
おとなで大きいけれど、
おかあさまの
おこころはちいさい。

だって、おかあさまはいいました、
ちいさいわたしでいっぱいだって。

わたしは子どもで
ちいさいけれど、
ちいさいわたしのこころは大きい。

だって、大きいおかあさまで、
まだいっぱいにならないで、
いろんなことをおもうから。

この詩は実に恐ろしい詩です。「おかあさま」という部分を「先生」ということばに置き換えてみてください。もう一度読みましょう。
どうですか。子どもの突き刺すような眼差しを感じませんか。こどもの目線を決して忘れてはなりません。

次に暗い時代の人間が子どもをどう思ったか紹介しました。
ロシアの劇作家、マキシム・ゴーリキーは『どん底』という劇の中で人殺しともやくざとも思われている最高の悪人に演説をさせます。悪人は通夜の席で、酒に酔い、本音で語りだします。

生きている者は、みんな、よりよき人間のために生きているんだ！ だから、どんな人間でも、尊敬しなきゃならん……だって、それがどういう人間で、何のために生まれて来て、何をしてくることができるか、それは、わしらにはわかっていないんからさ……ひょっとするとその人は、わしらを幸福にするために生まれてきたのかも知れないし……また、わしらに大変な利益を与えるために生まれてきたのかも、知れない！ ……何はともあれ、子供というのは、尊敬しなくちゃならん……小さい子供はな！ 小さい子供たちには……ひろびろとした自由というものが必要だ！ お互いに、子供の生きる邪魔をしてはならん……子供は尊敬しなくちゃならん！

4つ目の新しいエピソードはオーストラリアでの話です。
先月、1週間の日程で、オーストラリアのプリ・スクール（幼稚園）、チャイルド・ケア・センター（保育所）、プライマリー・スクール（小学校）など6つの教育・育児施設を2年生の学生たちが訪問しました。
私が日本文化を教えたことのあるミリアム先生が園長をしているプリ・スクールを訪問した時のことです。ウィルビー・カウンスル特別区の区長が歓迎会を開いてくれました。約1時間、子ども、親、先生方と一緒においしいケーキ

や飲み物をいただいで楽しいひと時を過ごしました。まず区長の歓迎の挨拶が高らかに始まりました。

「日本の幼稚園の先生や保育者を目指す学生たちが市の幼稚園を訪問してくれて大変うれしい。ウィルビー・カウンスル特別区は東京の杉並区と友好都市関係を結んでいます。杉並区に住んでいる学生がいますか。一人の学生が手を上げました。杉並区の区長さんは山田さんといいます。知っていますか。会ったらよろしく伝えてください。」

というユーモラスな挨拶に始まって、やがてグッド・ウィル・スピーチに発展しました。

「子どもは宝ものです。なぜなら未来を持っているからです。私たちは子どもの声に耳を傾け、子どもの行為から学ばなければなりません。皆さんは将来、子どもたちの成長を支援する仕事に就く学生たちですね。すばらしい仕事を選ばれました。皆さんにも輝く未来があります。そういう青年たちが私たちの市の幼稚園を訪問し、子どもたちと遊んでくださるのは何とすばらしいことでしょうか。」

最後はこのように終わりました。

「人類にとって、神からの最高の贈り物は子どもたちを授けてくれたことです。人間の営みは、すべては子どもから始まります。子どもは親から学び、親は子どもから学びます。このように慈しみ、育て、学び、そしてともに大きな愛を作り上げていくのです。これが最高の例であります。人間が人間である最高の証であります」。

アフタヌーン・ティのとき、私と市長と子どもが滑り台のそばに座ってお茶を飲みながら雑談をしました。何か変です。それは彼のそばに、お付の人も、園長も、教師も、保護者も寄ってこないからです。来るのは子どもたちだけです。「今日は子どもに会いに来たのです。子どもの話を聞きに来たのです。子どもから教わるという表現は正しくない。子どもから学ぶために来たのです。」と彼は言いました。約20分間、彼は精力的に食べ、精力的に子どもと交流し、多くのことを学ぼうとしていました。
オーストラリアの教育はまだ熟していない部分、ほめて言えば若さが勝っている部分があります。おそらく政治もそうだろうと思います。しかしこの市長の、子どもから学ぶためにプリスクールへ来た、教師や親から陳情を聞くために来たのではないという姿勢には学ぶべきものがあるでしょう。

4つのエピソードを紹介してきました。

授業が始まると、多用な角度から子どもについて小さい断片のような知識・技術を学びます。心理、衛生、栄養、身体的発達、ことば、運動、制度、法律、指導法、ピアノの技能、遊具や造形についての知識、心や体に障害のある人、遊び方、書き方、読み方、歌い方など数え切れません。
それでも子どもは分かりません。そこで授業で学んだ子どもについての知識、ガラスの破片のような知識を、今日紹介したエピソードに関連付けて整理してみてください。自分の子ども論にほころびが出てきたら少し進歩したと考えていいでしょう。

さてここからまとめにかかります。
皆さんが入学した日本音楽学校とはどんな学校でしょうか。1903年に誕生してから、一つ一つ新しいものを作り出しながら、前進を続けてきた日本で最も長い歴史を持つ学校の一つです。We are Changing. Never Stop.がEducational Identityです。
ここ数年間、日本音楽学校はいろいろなりフォームを試みました。

AO入試を専門学校で最初に導入したのは私たちです。もう4年になります。
学生による授業評価やミニツペーパーに最初に取り組んだのも私たちです。授業評価もミニツ・ペーパーも五年になりました。教員にとって学生から授業の評価を受けることは過酷な状況です。しかし本校の教員は見事に評価を受け入れ、授業改善に取り組んできました。
教員の活躍をもう一つ紹介しましょう。毎年、教育方法や教材開発についての研究論文を書き、社会に評価を問う活動を数年間続けています。そのためにどうしても外部から研究資金を獲得しなければなりません。研究資金の獲得数と額は教育系の専門学校では最高に達しています。

禁煙の文化が定着しました。永い苦難の道でした。わずかな文化でも変えるには多くの犠牲が伴います。禁煙文化まで3年、1000日かかりました。
いま学生のコスチューム、子どもとかかわる仕事を学ぶ学生の「文化としてのコスチューム」とは何かを教員と学生で検討しています。もう一年になります。

昨年度の就職率は94%でした。すばらしいことです。特筆すべきは、男性の就職率も94%でした。

保育研究発表会は、子どもたちと交流するプログラム、外部の方に教育・研究の成果を見ていただくプログラムの二つから構成されています。発表のテーマが見事に成長し、定着しました。いろいろな場面で語られる学生生活のトップ・トピックスはいつも保育研究発表会です。

毎週1日出かけ、約1学期間続くセメスター実習も当たり前のように行われるようになりました。何事もスタート時は混乱を起こします。
昨年度の実習でも、挫折した学生、病気になる中断した学生、厳しい指導に泣いた学生が何人かおりました。しかし感激するような新現象が起きました。それは、実習先から苦言や非難のクレームを受け、特別指導に苦慮したケースが一つなかったことです。

いま、私の両翼に座っている2年生を見てください。私が誇りとする学生たちです。みなさんは実習で立派な成績を残しました。実習園や施設から年間を通してクレームがなかったことは画期的なことです。みなさんの努力に心から感謝の意を表します。
新入生の皆さん、ここにいる2年生も、一つの新しい歴史を作ったのです。

あなたがたも2年生を誇りとしてください。そして彼らから多くのことを学んでください。

私たちは皆さんのニーズを受け止めながら、変革したいと願っています。昨年度から、芸術を通したセラピーこそ新しい保育者に必要だと考え、セラピー関連科目を開設しました。
今年は8月にグラハム・ディッカーソン先生をイギリスから招き、音楽セラピーのワークショップを行います。日本音楽学校だから出来る授業であり、日本音楽学校しか出来ない授業です。どうか本物の音楽セラピーを学んでください。

このように、みなさんが入学された日本音楽学校は実に個性の強い学校になりつつあります。どうか新しい歴史づくりに挑戦してください。そして2年後には保育者となる当初の夢を実現できるよう、今この瞬間から第一歩を踏み出してください。最後に、私のモットーを差し上げます。

「まず行動せよ。そして考えよ。」